

研究機関：広島大学

研究課題：MRI を用いた精神疾患の病態解明及び客観的診断法確立のための
多施設共同研究

研究責任者名 広島大学大学院医系科学研究科精神神経医科学 教授 岡本 泰昌

研究期間 平成27(2015)年7月13日(倫理委員会承認後)～ 令和7(2025)年3月31日

対象者

H15(2003)年1月からR2(2020)年10月の間に、広島大学病院精神科で下記の研究に参加

された患者および健常ボランティア。

- ・気分障害患者における脳機能マッピング法を用いた脳の反応性に関する研究
- ・気分障害の認知障害とその治療法に関する心理社会的・脳科学的検討
- ・難治性うつ病の治療反応性予測と客観的診断法に関する生物・心理・社会的統合研究
- ・うつ病・躁うつ病・難治性うつ病の診断・治療法の創出のための脳機能画像研究

意義・目的

うつ病は自殺や長期休職といった社会問題と密接に関係しており、その病態の本質的な解明が急務となっていますが、その脳メカニズムまだ解明されていません。今回、MRIなどの脳画像データ（機能画像を含む）と関連する症候や行動データを統合的に解析することでうつ病の脳内メカニズムを解明し、よりよい診断・治療法を開発に活用するため、この研究を計画しました。

方法

本研究は、過去に研究用に撮像し連結可能な匿名化をされたMRIデータおよび研究参加当時の質問紙・行動課題データを、他機関での過去の研究で得られたデータと合わせて二次解析します（個人を特定可能な情報は解析に用いません）。

共同研究機関

沖縄科学技術大学院大学神経計算ユニット、国際電気通信基礎技術研究所、大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室の認知ゲノム共同研究機構参加機関、量子科学技術研究開発機構、東京大学精神医学精神医学教室、山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学分野、玉川大学脳科学研究所の間で匿名化済みのデータを相互に共有し解析します。

個人情報保護について

データは全て連結可能な匿名化を行い、個人の特定ができないようにします。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんので